



VOL. 108
12年
05月

今月の
特集



私の
履歴

私の履歴 (9) 大学院 その2

やっと学位論文が完成したちょうどその頃に、イラクがクウェートに侵攻し湾岸戦争がはじまりました。一般の日本人には直接的には、あまり影響のない戦争だったかもしれませんが、我々防衛医大の卒業生にとってはとても大きなインパクトのある事件でした。イラク軍がクウェートに侵攻した際に「日本は金だけ出すのではなく、血も流すべきだ」との指令がアメリカから寄せられたのかどうかはわかりませんが、日本政府（海部内閣）は陸上自衛隊の医官を基幹とする衛生部隊を戦場に派遣することを検討していました。私は当時は防衛医大の研究科（大学院）に在籍していましたが、陸上自衛隊衛生部では派遣にあたってどのような事態が想定されるかを真剣に議論していました。

海部内閣は憲法九条との絡みで、紛争の予想される地域に武器を持たずに「丸腰」で派遣する方針を固めつつありました。陸上自衛隊衛生部に当時勤務していた、防衛医大同期の医師と1年先輩の医師は渦中で二人とも退職しました。防衛医大でもいろいろな議論が沸き起こりました。その嵐の中で防衛医大の自分の所属していた教室の医師派遣に対する対応の仕方などに失望したことなどもあり、自衛隊を退職する決断を下してしまいました。円満退職は無理かと考えていましたが、何とか円満に退職することが出来ました。私の「師匠」である鬼原先生は退職に強く反対されましたが、私は退職を思いとどまれません。今思うと若気の至りと思う点もありますが、後悔もあまりありません。米米 CLUB の「君がいるだけで」やドリカムの「決戦は金曜日」などが流行っていた頃です。

結局、韓国は医師を含む衛生部隊を派遣しましたが、日本の自衛隊は派遣されないまま、アメリカ軍の急襲によって湾岸戦争はあっけなく終了したのです。その後アメリカはイラク本土に攻め入ってイラク戦争に進展したのです。多くの血が流され、最近までイラクにはアメリカ軍をはじめとした多国籍の軍が駐留していたのはみなさんご存知の通りです。イラク戦争終了後に自衛隊もイラク国内のサマーワに駐屯しました。私の知っている防衛医大の多くの後輩たちもサマーワやペルシャ湾に掃海艇などで参加したのです。(次号へ続く)

無自覚性低血糖を知っていますか (糖尿病療養指導士 出尾)

最近の新聞に、糖尿病でインスリン注射をしている40代の男性が、スポーツクラブで運動をした後（血糖値を測ったか不明ですが）補食をしないで車を運転して帰宅途中、17歳の少年をひき逃げして死亡させたという残念な記事が出ていました。糖尿病治療をされている方で体調が悪かったり食事量が少なかったり、いつもより運動量が多かったりして血糖値が70以下に下がると冷汗・動悸・異常な空腹感、手のふるえなどの症状が現われます。(個人差があり90くらいでも症状が出る人もいます)このような症状は血糖の低下に反応して、アドレナリン(皆さんも聞いたことがある怒ったり緊張した時に出るホルモンですね)が血中にたくさん出ることによって起こります。この場合、直ちにブドウ糖やジュースを飲用して対処すれば改善します。しかし何らかの原因でアドレナリンがあまり出ない人もいます。その場合は上記のような症状が出ないで、急に意識がもうろうとしてくる場合があり、無自覚性低血糖と呼びます。

普通の低血糖であれば上記のような症状が出現した時に気を付けておけば対応が可能ですが、無自覚性低血糖はそのような症状が出ないで、急に意識がもうろうとすることもある大変危険な低血糖症状です。

冷や汗などの症状が出にくくなる原因は「糖尿病の神経障害のためにアドレナリンが出にくくなる場合」と「低血糖が繰り返し何度も起こっているため、自律神経が鈍くなりアドレナリンの反応が悪くなる場合」の二つです。(後者は1~2ヶ月位低血糖を起こさなければかなり改善することができます。だから低血糖が起こったらその場の対処をするだけでなく、原因をはっきりさせて、次からは低血糖を起こさないようにすることが大変大切です。実際にそのように気を付けていると、2か月後には低血糖の時には冷や汗などが出るように神経が回復して、アドレナリンが出るようになります)

先に書いた不幸な事故に関して、主治医は以前からその患者さんには無自覚性低血糖が見られた旨をコメントしています。低血糖になっても冷や汗や動悸などの症状の出ない方は、運転などをされる前に血糖値を測ることが重要です。ちょっとでもおかしいなと感じた時に、血糖値を測定しておけばこのような事故はかなり防げます。また低血糖があったら必ず主治医とその原因や低血糖を起こさないための方策を相談しましょう。

これから行楽シーズンです。車で出かける事が多くなるでしょうが、長時間運転する場合は、疲労もたまり血糖値にも影響がでてきます。定期的に休憩を入れて血糖値をこまめにチェックすることを心がけましょう。安全運転で楽しい旅を満喫して下さい!



9



休診のお知らせ

5月と6月の診療予定です。宜しく御了承ください。

5月						
S	M	T	W	T	F	S
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		
6月						
S	M	T	W	T	F	S
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30